Medical and Pharmaceutical Society for WAKAN-YAKU

S-7 14:55～15:10
難治性疾患の和漢薬治療―強皮症をめぐって ❸

強皮症に対する漢方治療の臨床的効果
－ADLを中心として－

○古田　一史[1)]、三潴　忠道[2)]
ももち東洋クリニック[1)]、麻生飯塚病院・漢方診療科[2)]

［緒言］一般に、強皮症の皮膚硬化に対して、Dペニシラミンなどが用いられるが、長期連用に伴う副作用や効果の持続性に未だ課題が残されている。今回、強皮症の皮膚硬化に対する漢方薬の効果について、特にADLに注目して検討した。

［対象と方法］対象は1992年4月から11年間に麻生飯塚病院漢方診療科あるいはももち東洋クリニックを受診し、皮膚硬化による日常生活動作能力(ADL)の障害を認めた20例(全例が女性で平均年齢は53.2±12.2歳)を対象とした。漢方薬は患者の証に応じて選択し、皮膚硬化に関連したADLの改善の程度により「有効」、「やや有効」、「無効」と判定した。また、症例によりTotal Skin Scoreによる皮膚軟化の評価も行った。

［結果］有効例1：48歳、女性、罹病期間は11年。桂枝茯苓丸に九味檳榔湯を併用し、投与6週後には、手背の皮膚軟化を認め、Total Skin Scoreが24点から16点と改善。さらに口を開けたときの門歯間距離も25mmから40mmと広がり、皮膚の色素沈着も軽減。家事などの日常生活に顕著な改善を示した。

有効例2：41歳、女性、罹病期間は3年。皮膚硬化の程度は極めて高度であり、著しい開口制限のために食事が十分にできない、一人で風呂に入れない、ベッド上の起座さえ困難な状態であった。当帰芍薬散に牛車腎気丸料を併用し、6週間で腹壁の軟化が始まり、その後、一人で起座が可能となり、開口制限および舌小体短縮の改善とともに舌が出しやすくなり、その結果食事が容易になった。入浴時必要であった介助も不要となり、靴下も自分で履くことができるなどADLは著明に改善した。

以上の2例を含めて有効は9例、やや有効6例、無効5例であった。やや有効以上の15例で用いられた方剤は桂枝茯苓丸10例、当帰芍薬散3例、八味地黄丸3例、牛車腎気丸1例、柴胡桂枝湯1例、苓姜朮甘湯1例、当帰四逆加呉茱萸生姜湯1例、当帰建中湯1例、九味檳榔湯1例、特に15例中13例で桂枝茯苓丸あるいは当帰芍薬散が用いられていた。

［結論］漢方薬は比較的早期に皮膚硬化に伴うADLの障害に対して有効と考えられた。漢方薬の中では、特に桂枝茯苓丸、当帰芍薬散が有効であった。

現代医学的には決定的な治療手段がない本疾患に対して、漢方治療が新たな治療手段となりうることが期待された。

NII-Electronic Library Service